

浪江町中心市街地再生計画のポイント

1. 中心市街地の役割

浪江町の中心市街地再生計画は、一般的な地方都市の中心市街地活性化計画と異なり、原発災害の被災地を復興するために中心市街地が果たす役割を念頭に置かなければならない。

○帰還する町民に対して

中心市街地に居住する人だけが対象ではなく、町内全域に戻った人、あるいは居住しないものの、商業、事業を再開する人に対しても、買い物、医療、介護、交通などの基礎的な生活サービスを提供し、町民間のふれあい、文化的な活動、コミュニティの形成の場となり、また安心・安全な生活環境を守る防犯、防災などの機能を果たさなければならない。

○当面帰還できない人に対しても

浪江町に来る時、中心市街地に来れば、人とのつながり、歴史や文化に触れて、ふるさと感じ、帰還する意思を高められるような中心市街地であること目指さなければならない。さらに地理的・歴史的な成り立ちから、浪江町の中心市街地は、他の町の帰還できない人にとっても、帰還する希望を持たせる存在でありたい。

○多くの人の帰還につながる居住機能

従来、浪江町の中心市街地は商業面の役割が強調されてきた。比較的コミュニティの力で、安心・安全な生活環境を実現できうる中心市街地は、帰還できない、あるいは帰還が不安という人に、居住を選択する機会を提供することで、できるだけ多くの人の帰還に貢献することができる。

浪江町中心市街地再生計画のポイント

2. 中心市街地の構造

中心市街地の地理的な構造は、活用が可能な施設を中心とするいくつかの核と、核の間をつなぐ歩行者重視の回遊軸、機能を連携、補完する仕組みで構成する。

○中心市街地の核

- ・街の顔である駅前と公共施設が備わる駅西側
- ・様々な活用できるスペースである浪江小学校と公園
- ・商業の中心であった新町通
- ・浪江町を訪れる際に最初に立ち寄る機会が最も多い交流・情報発信拠点(道の駅)
- ・行政的な機能に加えて、仮設商店街など新しい機能も持つ役場周辺

○中心市街地周辺地区とのネットワーク

- ・国道6号東側に展開する住宅団地や小中学校等のネットワーク形成
上記を中心市街地で展開する住民サービスやコミュニティ活動の核として考える。

○核の連携

これらの核は、鉄道、バス、デマンド交通などの公共交通と連携して、高齢者も含む住民や町を訪れる人が、楽しみながら歩いて回遊する東西方向の軸でつながるとともに、機能面でも連携し、互いに助け合うように工夫する。